

1) - 9 入力地震動をパラメータとした実大在来木造建物の振動実験

研究期間 (平成 25~27 年度)

[担当者] 荒木康弘

本共同研究は、木造建物を対象として、様々な特性を持つ入力地震動と構造体の耐震性能をパラメータとした実験及び解析的検討を行い、生じる被害と地震動の性質の関係について明らかにすることにより、応答評価技術の高度化を目指すと共に、より高い精度を有する地震動強さ指標と被害関数の提案を行う。

平成 27 年度は、入力地震動 () と建物性能 (壁量を変化) をパラメータとした実大木造建物の振動実験を実施した。具体的には、壁仕様と壁量を変化させた試験体について検討を行い、地震動の周期によっては建物耐力が高い建物が大きく応答することを確認した。